

## 公立大学法人福岡県立大学

### I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標（中期目標期間：平成24年4月1日から平成30年3月31日まで）において、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを最も重要な使命としている。

平成29年度で第2期の中期目標期間が終了したことに伴い、当該中期目標期間における中期目標の達成状況の調査・分析を行い、これらの結果を考慮して当該中期目標の期間における業務の実績の全体について総合的な評価をして、認証評価機関による評価結果も踏まえ、評価を行った。

評価の結果、中期目標項目6項目全て（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価及び情報公開）について「達成状況が良好である」と評価した。

理事長のリーダーシップの下、大学の個性を生かした特色ある教育を行うなど、社会の発展に貢献できる優れた人材の育成をはじめとした取組を着実に実施している。

また、中期目標に掲げている重点事項についても、人間社会学部を改革し、全学横断型教育プログラムを開設するとともに、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談・支援事業等、社会貢献活動を積極的に実施するなど、全体としては、達成状況が良好であると認められる。

少子高齢化の進展等に伴い、家族や地域の支援力が低下している状況の中、保健・医療・福祉の分野横断的な知識・技能及び情報化に対応した包括的技能を有した人材の育成や、地域に開かれた大学として地域と連携した取組がますます重要となっている。

平成30年度から第3期の中期目標期間に入り、新たなスタートを切った公立大学法人福岡県立大学が、理事長のリーダーシップの下、魅力ある大学づくりを一層推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

### II 項目別評価（中期目標項目別評価）

#### 1 教育

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

教育については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

##### (1) 教養教育の充実

- ・グローバル化へ対応するための新科目や教養演習英語クラスを開講するとともに

に、教養演習の共通テキストの改訂や授業担当者へのワークショップを行っている。

## (2) 専門教育の充実

- ・人間社会学部において専門性を高めるため、学科制からコース制への移行に伴い、各コースのカリキュラムの見直しを行い実施した。
- ・看護学研究科において、専門看護師コース（精神看護、老年看護）、助産実践形成コース、助産実践アドバンスコースを開設し、高度な専門看護職教育の充実を図るとともに、在學生と修了生のネットワーク化に取り組んでいる。
- ・他大学との連携によるインターンシップ・プログラムの開発など、インターンシップを通じた教育強化に取り組むとともに、「ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム」を構築し、単位互換や合同短期研修などを実施していることを評価する。

## (3) 教育効果を検証するシステムの構築

- ・看護師、保健師、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率や就職率が、高水準を維持していることを評価する。

## (4) 教員の教育能力の向上

- ・教員間の授業参観や公開授業の実施、授業自己評価・対応プランの作成、ブラッシュアップセミナーの開催など、ファカルティ・ディベロップメントの推進に努めている。

## (5) 優秀な学生の確保

- ・オープンキャンパスの開催や入試説明会への参加、SNSを活用した情報発信等、入試広報活動に積極的に取り組み、志願倍率の高水準の維持に努めている。
- ・意欲ある学生を確保するため、小論文試験問題と面接問題及び出題意図を取りまとめた冊子を作成し、高校生等に配布している。

## (6) 学生支援の充実

- ・系統的キャリア形成支援講座や段階的インターンシップ・プログラム、マイキャリアポケット（社会貢献活動記録帳）など、きめ細かなキャリア形成支援に努めるとともに、GPA制度を活用した個別の学習支援を行っている。
- ・熊本地震の被災者等を支援するため、授業料の減免等を行うとともに、入学料免除等の特別措置を整備した。
- ・経済的理由により修学を継続することが困難な学生に対し、福岡県立大学特別奨学金による支援を行った。

## (7) 学習環境の充実

- ・図書館の情報端末を充実するとともに、図書館セミナーや学生選書ツアーを開催するなど、学生が利用しやすい環境づくりを進め、ラーニングコモンズや開館延長時間内の利用が促進されている。

#### (8) 人間社会学部の改革

- ・教員組織の改革として学科制度を廃止し、全教員を「人間社会学系」所属するとともに、4つの全学横断型教育プログラム（保健福祉情報教育プログラム、援助力養成プログラム、国際交流プログラム、キャリア形成支援プログラム）を開設したことを評価する。
- ・国際交流プログラムに新たに設定した4年間で卒業が可能な留学コースを利用して、学生が長期留学した。

#### (9) 両学部連携の大学院博士課程の新設

- ・博士課程の新設について方向性を検討している。

## 2 研究

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

研究については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究費補助金の応募率が向上し、獲得件数が目標を上回るなど、外部研究資金獲得を積極的に進めている。

## 3 社会貢献

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

社会貢献については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・地域・国際交流コーディネーター及び国際交流チューターを配置し、協定締結校との文化・学術交流事業や短期研修プログラム（派遣）の実施など、国際交流を推進するとともに、受入留学生数が遡増している。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、不登校やその支援に関する相談や県大子どもサポーターの派遣、キャンパス・スクールなどを実施し、不登校・ひきこもり対策に優れた実績を上げるとともに、福岡県不登校児童生徒復帰支援事業を実施していることを評価する。

- ・社会貢献・ボランティア支援センターにおいて、外部団体と学生とのコーディネートを行うとともに、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」を実施し、地域の補充学習の場に学生を学習ボランティアとして派遣するなど、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援している。
- ・生涯福祉研究センター及びヘルスプロモーション実践研究センターにおいて、地域ニーズを踏まえた資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施に努めている。
- ・熊本地震及び九州北部豪雨災害に係る募金活動を行った。

#### 4 業務運営

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

業務運営については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・事務局機能の強化に向けて、プロパー職員を採用するとともに、外部研修会への職員派遣を行っている。
- ・改革推進委員会の設置、学内委員会・部会の抜本的再編を行い、全部会を主要5委員会の下に位置付けることで、意思決定の枠組みを明確にし、委員会・部会の活性化を図った。

#### 5 財務

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

財務については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。
- ・週休日の振替を徹底するなど、時間外勤務の縮減とワークライフバランスの推進を図っている。

#### 6 評価及び情報公開

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

評価及び情報公開については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、教育プログラ

ムにおける特色ある取組の広報やプロモーションビデオ（国際版）の制作など、プレゼンスの向上を図っている。